

VSCode2

■TeX

◆事前準備

- ・「設定」
- ・math を検索
- ・数式のレンダリング



Markdown > Math: Enabled



組み込みのマークダウン プレビューでの数式のレンダリングを有効/無効にします。

◆新規ファイル

保存拡張子は「.md」

◆表示

VSCode の数式表示機能は「Ka TeX」のライブラリを使用しているので、詳しくはサイトを採用すること。



- ・インラインなら \$ ひとつで挟む
- ・ディスプレイ数式表示なら \$ \$ で囲む

\$\$

y=x+12

\$\$

■記述

◆分数

※MAC の場合、バックスラッシュは「option+¥」。常用するのなら「設定」の「キーボード」内にある「テキスト入力」－「入力ソース」で「¥」使用時の設定を\に変更しておく。

$\frac{\text{分子}}{\text{分母}}$

\$\$

$y = \frac{3}{5}x$

◆べき乗

べき乗の記号「^」を使う

◆三角関数

各表示の前に「\」をつける

π は \pi θ は \theta

\$\$

$y = \sin \theta$

「\」は改行表示

◆ルート

$\sqrt[\text{べき数}]{\text{ルートの内容}}$

\$\$

$y = \sqrt{\frac{1}{3x^2}}$

◆総和

`\sum`

上付、下付の指定

`\sum_{下付}^{上付}`

上下の区別は「^」「_」の記号なので順番は入れ替え可。ひと文字ならば {} は省略可能

```
$$  
y=\sum_{i=0}^{\infty} a_k^2\\
```

◆対数

`\log {底} 値`

◆極限

`\lim_{ 値1 \to 値2 }`

```
$$  
y=\lim_{n \to 0} f(x)\\
```

◆微分

そのまま記述ができる

◆積分

`\int_{下付}^{上付}`

```
$$  
y=\int_a^b f(x) dx \\
```

◆行列

`\begin{matrix}`

値 1 & 値 2 \\\

値 1 & 値 2 \\\

`\end{matrix}`

- `()` によるもの

最後が`\end{pmatrix}`

- `{}` によるもの

最後が`\end{bmatrix}`

- `| |` によるもの

最後が`\end{vmatrix}`

`$$`

`\begin{matrix}`

`1 & 0 & 1 \\\`

`0 & 1 & 0 \\\`

◆ギリシャ文字

各英文字読みの前に「\」をつける

小文字	大文字	読み	読み	小文字の主な用途
α	A	alpha	アルファ	角度, 係数, 温度係数, 減衰率
β	B	beta	ベータ	角度, 係数, 位相定数, 帰還率
γ	Γ	gamma	ガンマ	角度, 係数
δ	Δ	delta	デルタ	微小変化, 密度, 損失角
ε	E	epsilon	イプシロン	誘電率
ζ	Z	zeta	ゼータ (ツェータ)	減衰定数
η	H	eta	イータ	効率
θ	Θ	theta	シータ	角度, 位相, 熱抵抗
ι	I	iota	イオタ	
κ	K	kappa	カッパ	磁化率
λ	Λ	lambda	ラムダ	波長
μ	M	mu	ミュー	透磁率
ν	N	nu	ニュー	周波数
ξ	Ξ	xi	クサイ (グザイ)	
\omicron	O	omicron	オミクロン	
π	Π	pai	パイ	円周率
ρ	P	rho	ロー	抵抗率, 体積電荷密度
σ	Σ	sigma	シグマ	導電率, 表面電荷密度
τ	T	tau	タウ	時定数, 時間, トルク
υ	Υ	upsilon	ウプシロン	
ϕ	Φ	phi	ファイ	磁束, 位相, 角度
χ	Χ	chi	カイ	
ψ	Ψ	psi	プサイ	位相, 角度, 電束
ω	Ω	omega	オメガ	角速度, 角周波数